

arcserve®

Assured recovery™

新製品

Arcserve UDP v6.5

のご紹介

Arcserve Japan

> Arcserve UDP v6.5 の強化ポイント

クラウド対応

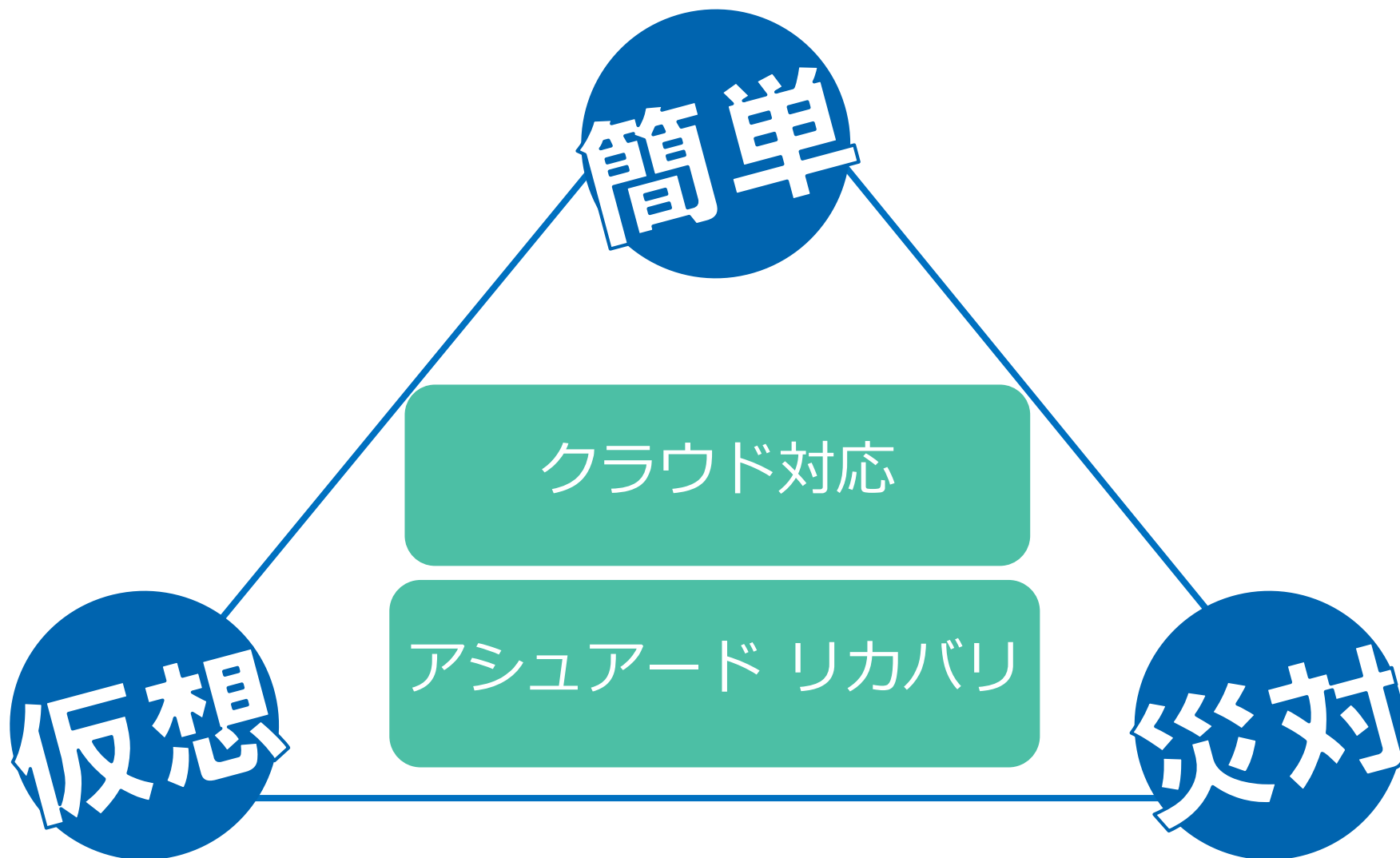


アシュアード リカバリ



※ この資料は2018年3月現在の最新版UDP v6.5 Update 3 の情報を元に作成しています。
各Update で追加された新機能や拡張機能については各Updateのリリースノートを参照ください。
<https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V6.5/JPN/Bookshelf.html>

> Arcserve UDP の全フォーカスエリアを強化



> 強化ポイントの概要

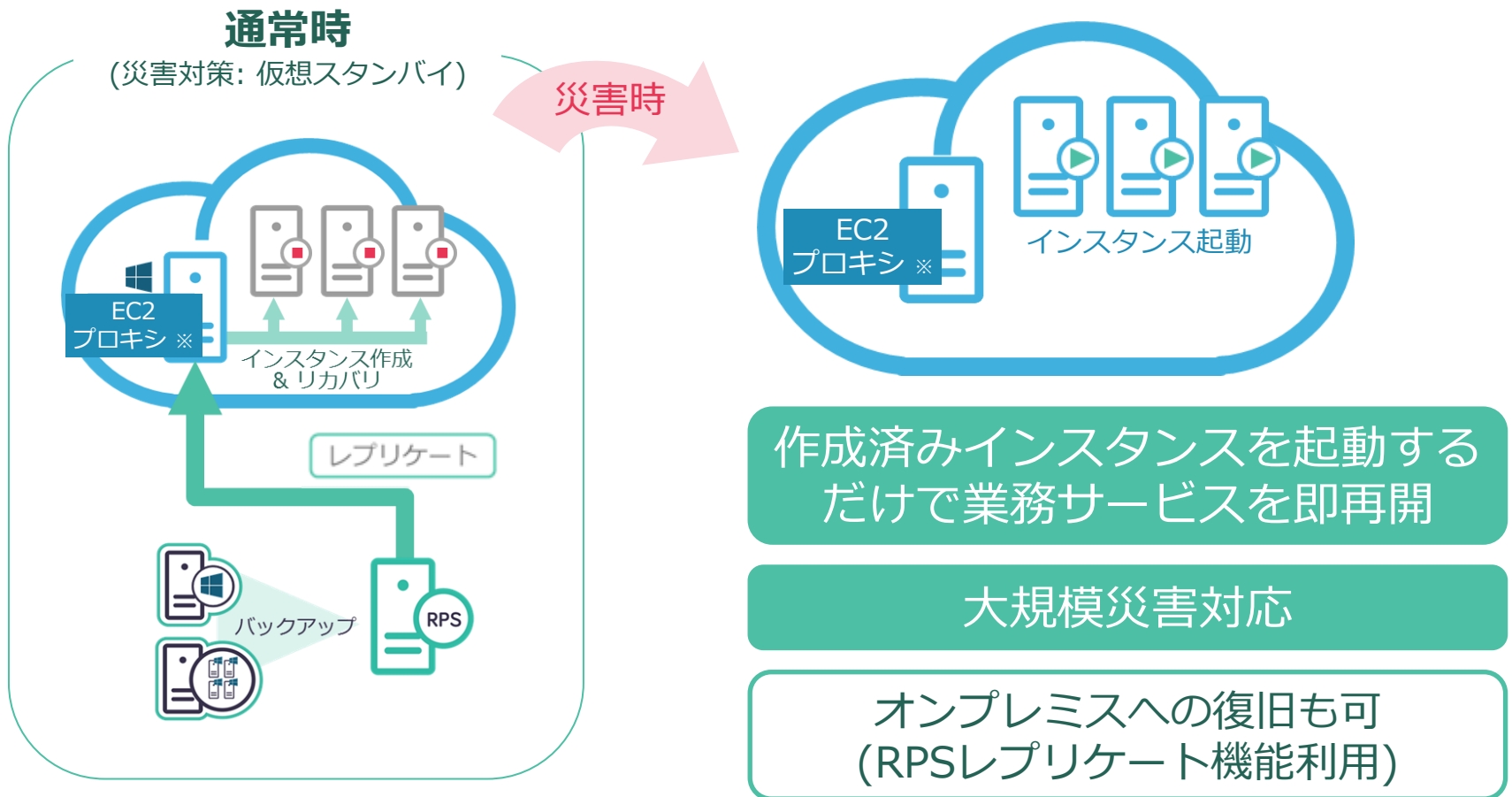
クラウド対応



アシュアード リカバリ

> Amazon EC2 および Microsoft Azure を 利用した Windows 環境の事業継続

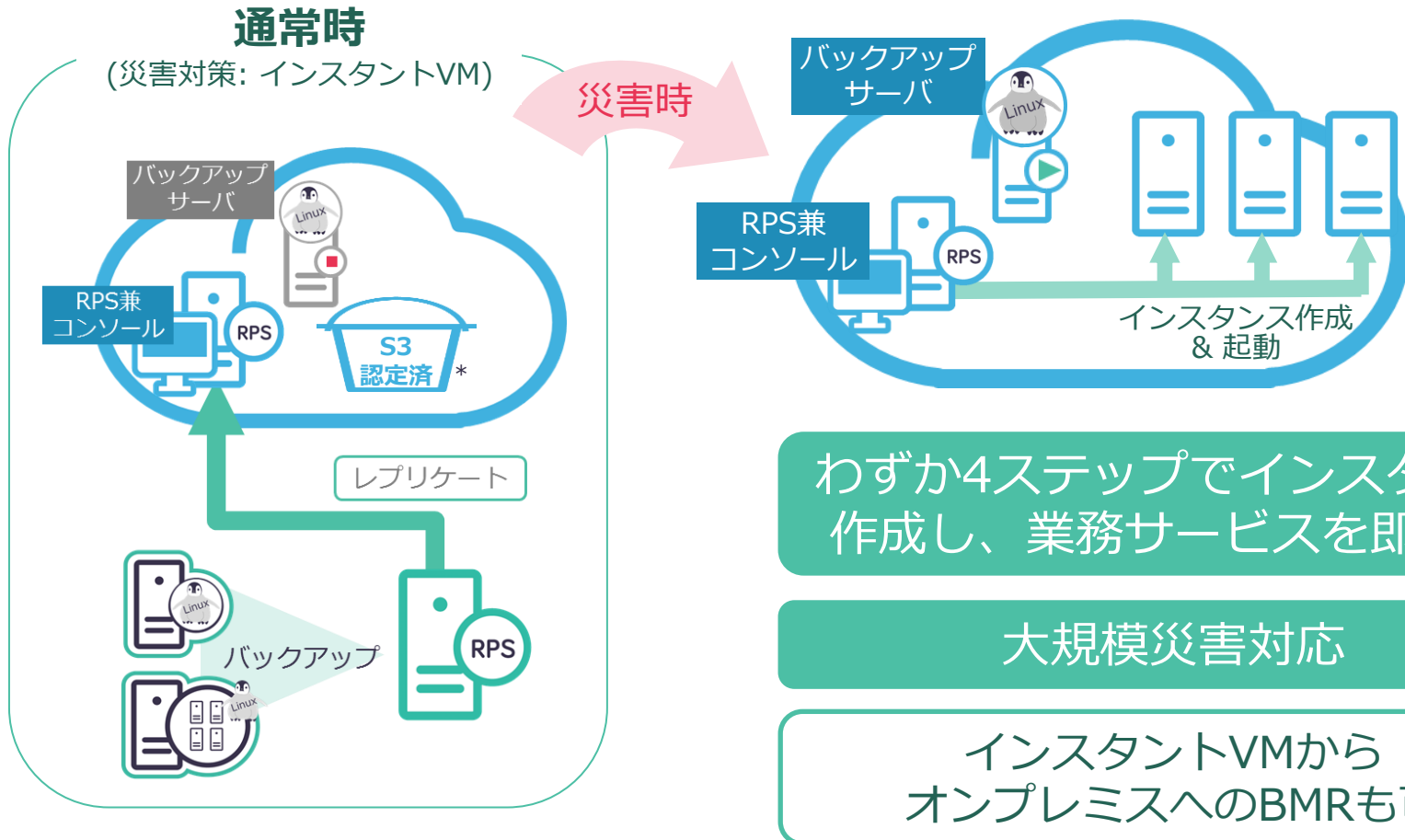
リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続



※ EC2 利用時に Arcserve UDP エージェント導入
Azure 利用時は、RPSから直接インスタンス作成

> Amazon EC2 および Microsoft Azure を 利用した Linux 環境の事業継続

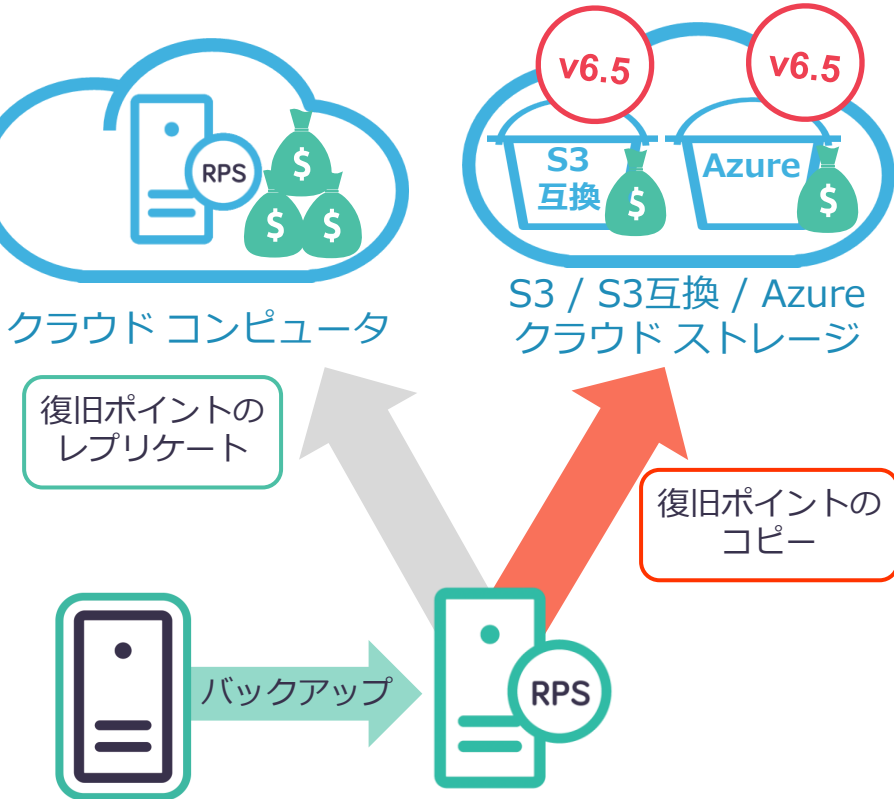
リストア時間 “ゼロ” でクラウドに**即**事業継続



* インスタントVMをS3にバックアップし、オンプレミスへBMR可

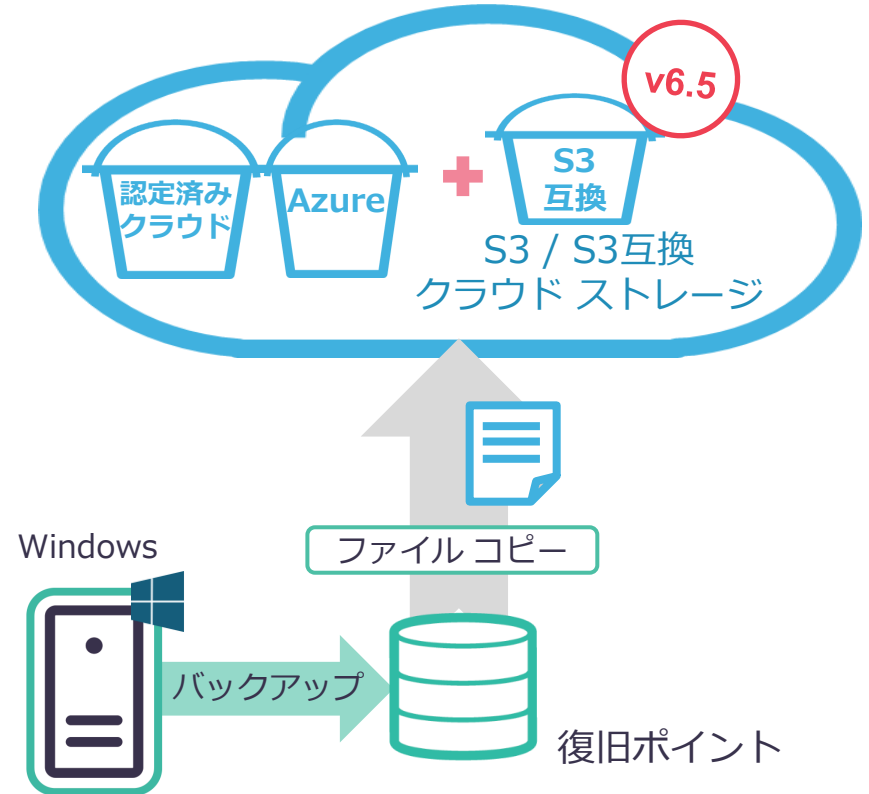
> クラウド ストレージ利用の拡張

バックアップ データのクラウド保管



クラウド ストレージでコストを削減

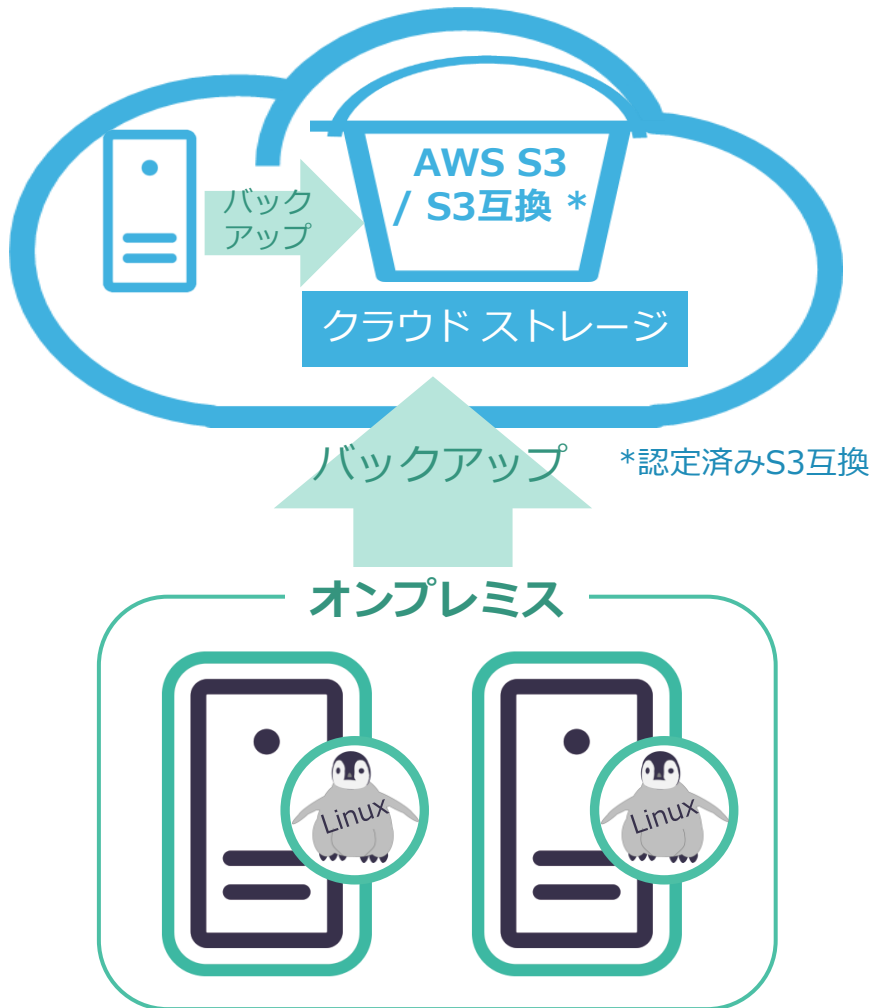
重要ファイルをクラウド保管



クラウド ストレージを自由に選択

> Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ

手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMRも可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可

> Office 365 のデータを安全に保管

クラウドの制限に縛られずに Office 365 のデータが保管可能



Exchange Online のアイテム保持期間

- 完全削除アイテム保持期間 => 14日
- 削除済みメールボックス保持期間 => 30日

SharePoint Online のテナント容量

- 初期容量 1TB + 0.5GB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

完全削除したアイテムを復元

継続増分 & 重複排除で
保管データを最小化

退職者のデータを復元
(他のアカウントへリストアなど)

> 多種多様なクラウド利用をサポート

オンプレミスの 災害対策

オフサイト保管:

- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー

- ファイル コピー

ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバ を S3 に直接バックアップおよびオンプレミスへの BMR

クラウドで 即事業継続

バックアップデータを用いた事業継続:

- EC2 / Azure への仮想スタンバイ

- EC2 / Azure へのインスタントVM

IaaS/PaaS/SaaS データの保護

IaaS/PaaS:

- EC2インスタンスからオンプレミスへのBMR

- EC2 / Azure のLinux インスタンスのバックアップおよびBMR

- クラウド コンピュータのバックアップ

SaaS:

- Office 365 バックアップ (Exchange / SharePoint)

※ “■” 部分はUDP v6.5 の新機能および拡張機能

> 強化ポイントの概要

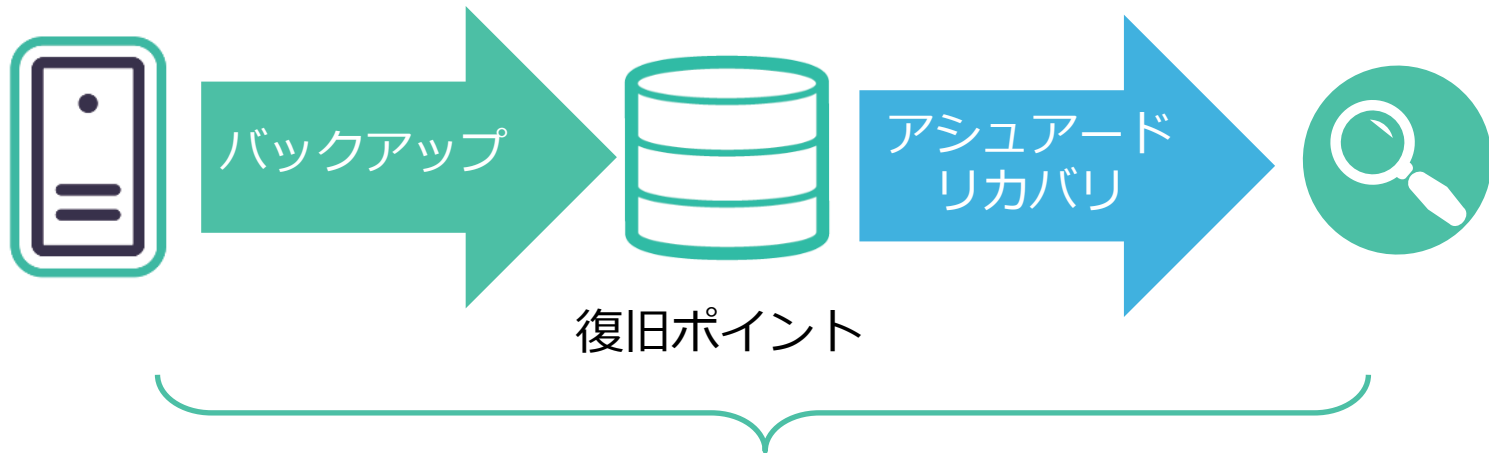
クラウド対応

アシュアード リカバリ



> アシュアード リカバリ

バックアップデータ (復旧ポイント) が
リストア可能な状態であることを自動確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

Windows/Linux/仮想の
バックアップとレプリケー
ト後のデータを確認

確認結果を
メールで通知

特定の曜日・時間を
指定して実行

> 復旧ポイントに対する確認方法

インスタントVMを利用して、 システムの正常起動を確認

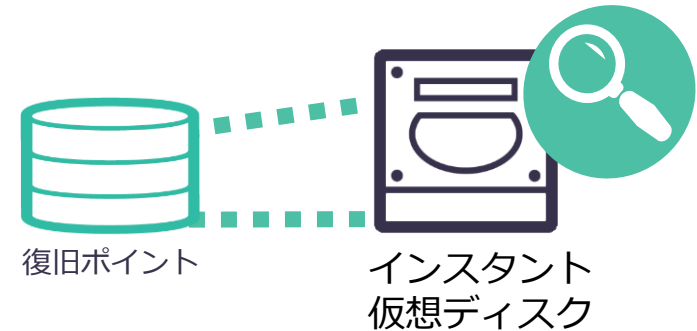


[確認のポイント]

- システムが起動可能か？
- サービス実行が可能か？
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか？(カスタムスクリプトを利用)

仮想ディスクを参照して、 データの状態を確認*

*バックアップ対象がWindows OSのみ



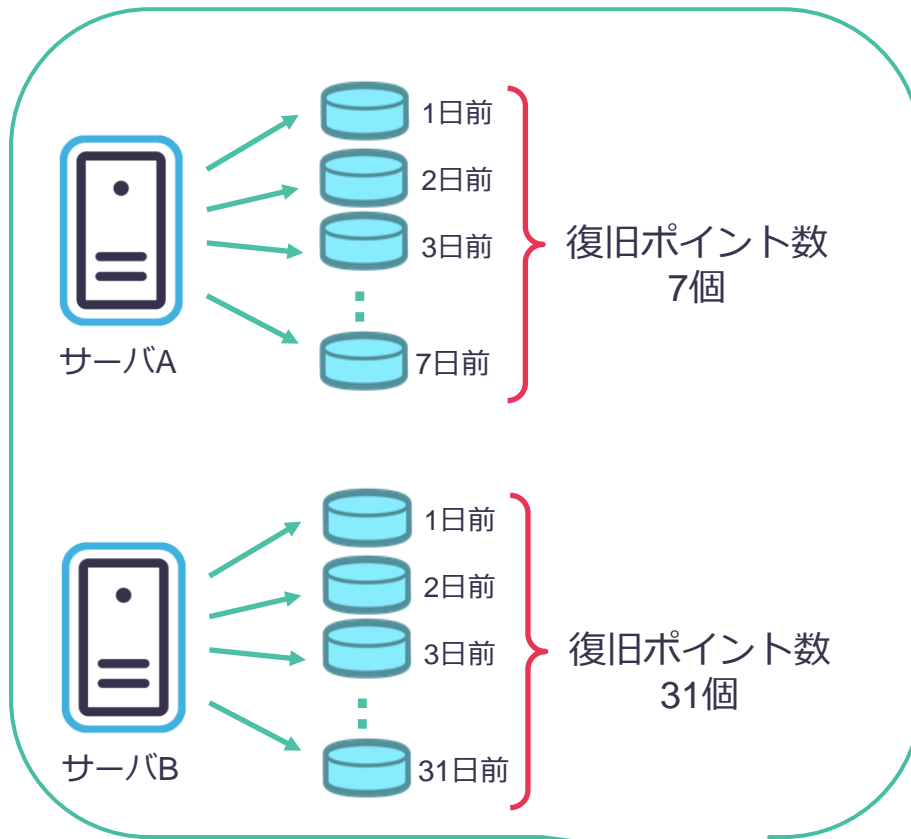
[確認のポイント]

- ファイル システムの整合性が取れているか？
- ディスクに破損はないか？
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か？(カスタムスクリプトを利用)

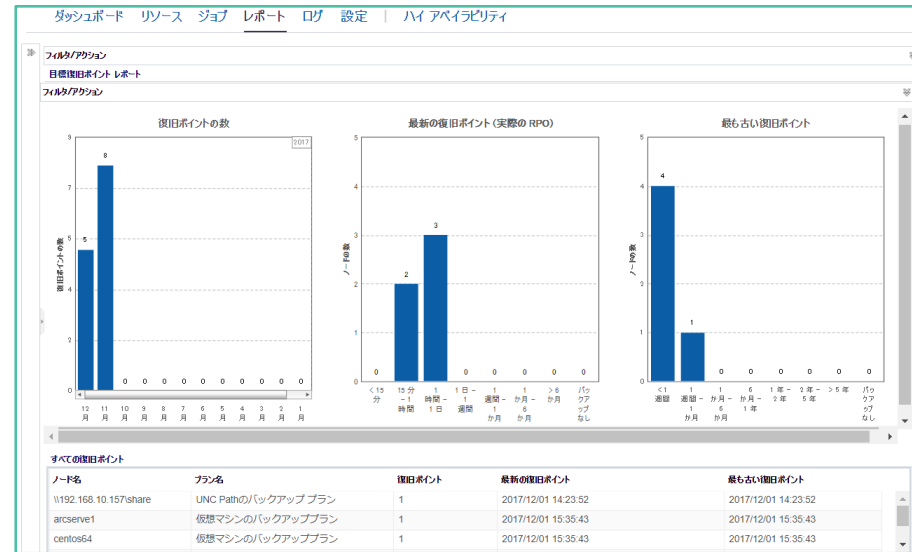
確認用ディスク スペース不要、短時間で自動確認！！

> RPO の可視化 (SLA レポート)

サーバ毎にどの時点まで戻せるかを可視化



RPO レポート画面



一定期間内の復旧ポイント数を各ノード毎に表示



自動作成したレポートをメールで転送可

> < サンプル > RPO レポート

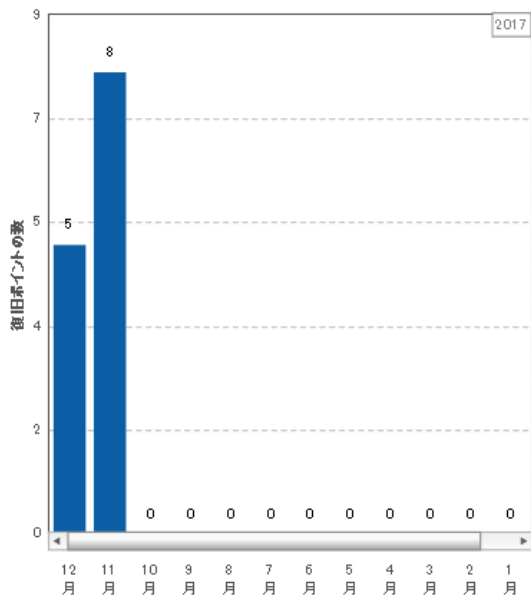
ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイリティ

フィルタ/アクション

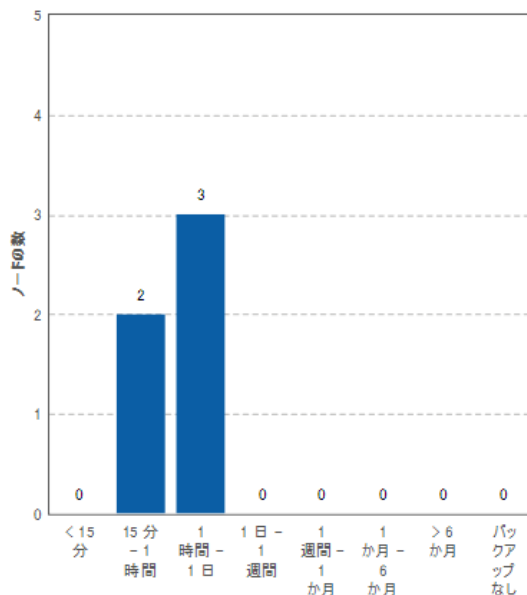
目標復旧ポイント レポート

フィルタ/アクション

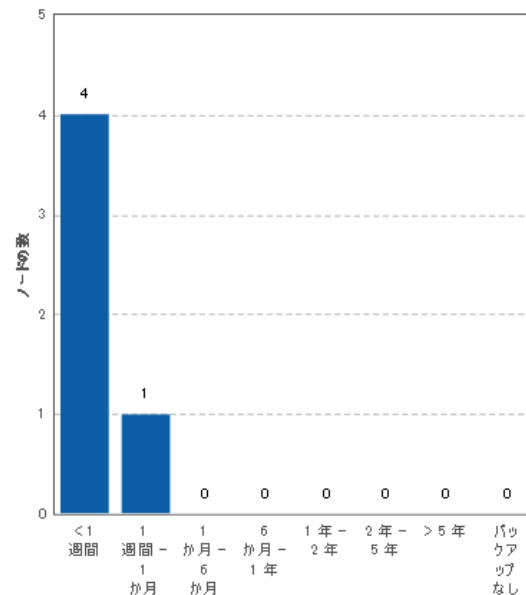
復旧ポイントの数



最新の復旧ポイント (実際の RPO)



最も古い復旧ポイント



すべての復旧ポイント

ノード名	プラン名	復旧ポイント	最新の復旧ポイント	最も古い復旧ポイント
\\192.168.10.157\share	UNC Pathのバックアッププラン	1	2017/12/01 14:23:52	2017/12/01 14:23:52
arcserve1	仮想マシンのバックアッププラン	1	2017/12/01 15:35:43	2017/12/01 15:35:43
centos64	仮想マシンのバックアッププラン	1	2017/12/01 15:35:43	2017/12/01 15:35:43

> RTO の可視化 (SLA レポート)

設定した目標復旧時間内に復旧できるかを可視化

測定対象

アシュアードリカバリ



BMR



インスタントVM



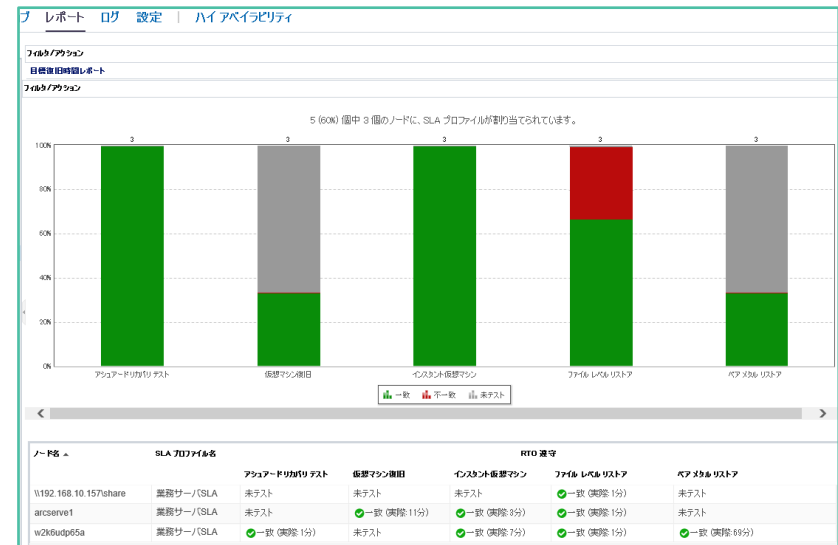
ファイルリストア



VM復旧



RTO レポート画面



実際の復旧時間と、目標の復旧時間を比較した結果を色分け表示

UDPコンソール



自動作成したレポートをメールで転送可

> < サンプル > RTO レポート



UDP v6.5 その他の進化

> Windows Server 2016 サポート

物理/仮想環境を保護



Windows 2016
物理サーバ



Windows 2016
Hyper-V
(仮想マシン / ホスト)

アプリケーションのオンライン バックアップも対応

SQL Server 2016
Exchange 2016
Active Directory



UDP全コンポーネントでサポート



エージェント



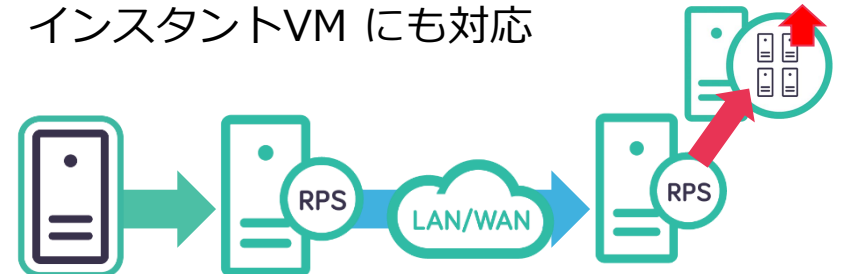
コンソール



復旧ポイント
サーバ

災害対策も可能

レプリケート、仮想スタンバイ、
インスタントVM にも対応



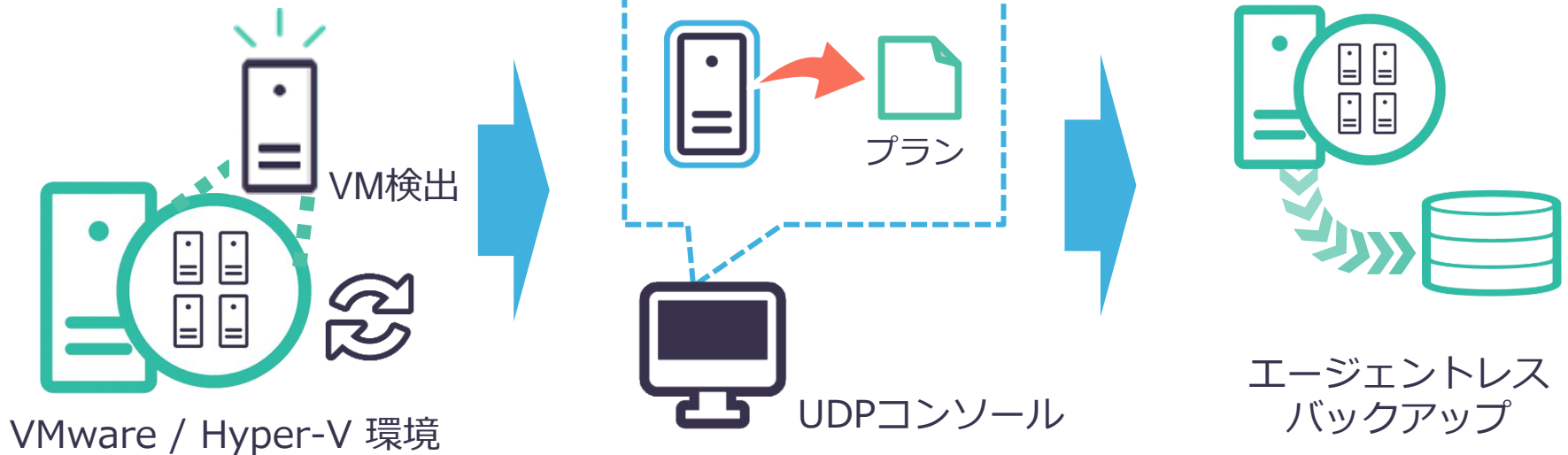
> 新規追加されたVMを漏れなくバックアップ

VMware および Hyper-V 環境の VM自動検出および自動バックアップ

① スケジュールで
仮想マシンや
テンプレートを検出

② プランに仮想マシン
を自動割り当て

③ スケジュールに
沿ってバックアップ

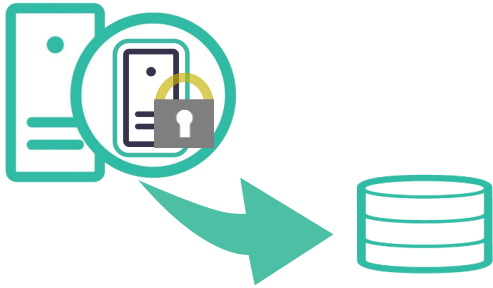


バックアップ設定の自動化で管理工数を削減

> 仮想環境への対応拡張

VMware vSphere 6.5 サポート

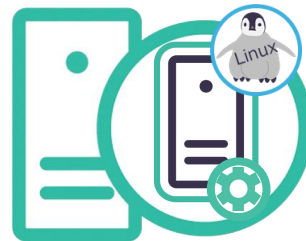
VMware vSphere 6.5



暗号化された
ゲストOSの保護など、
最新VMware環境に対応

Hyper-V Linux VM へのエージェント 導入をサポート

Linux ゲスト



Hyper-V ホスト

Linux ゲストOS内の特定
ボリュームを除外した
バックアップが可能

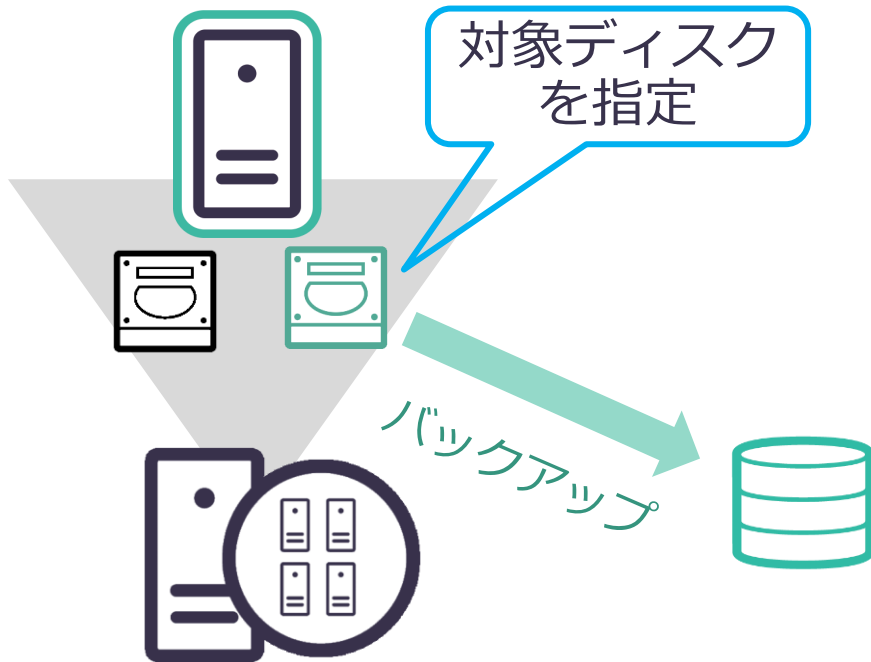
エージェントレスでも 元の場所へ 直接リストアが可能



エージェントレス
バックアップからの
リストア手順を簡略化

> 仮想マシンをディスク指定でバックアップ

仮想ディスクを限定したエージェントレスバックアップが可能



タスクの種類: バックアップ: ホストベースエージェントレス

ソース: デスティネーション: スケジュール: 拡張

バックアップ プロキシ: udp65u2 [追加]

[追加] [削除]

ノード	除外	インベントリ	仮想ディスクの除外
<input checked="" type="checkbox"/> W2k6udp65a			はい [設定]

バックアップから除外する仮想ディスクの選択

仮想ディスクのアタッチを除外するコントローラを選択します。

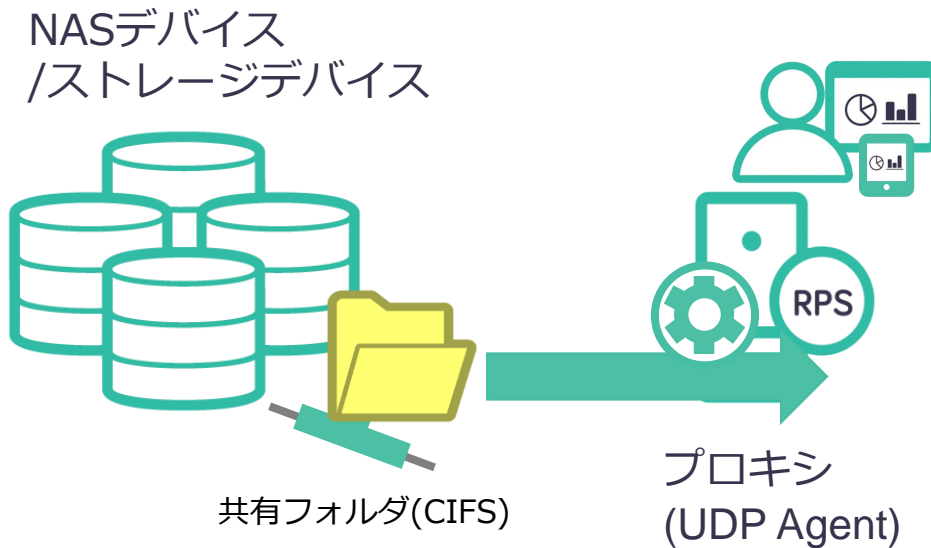
コントローラ	ディスク ファイル名	ディスク ファイルの場所	プロビジョニング タイプ	プロビジョニング済みサイズ	現在のサイズ (GB)
<input type="checkbox"/> SCSI(0:0)	W2k6udp65a.vmdk	[datastore2] W2k6udp65a/	シック プロビジョニング	30.00	30.00
<input checked="" type="checkbox"/> SCSI(0:1)	W2k6udp65a_1.vmdk	[datastore2] W2k6udp65a/	シン プロビジョニング	4.00	2.32

VMware / Hyper-V 環境

バックアップ時間短縮と、バックアップデータ量を削減

> 共有フォルダ (CIFS) のバックアップ

エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータをバックアップ



共有フォルダ単位で
バックアップ

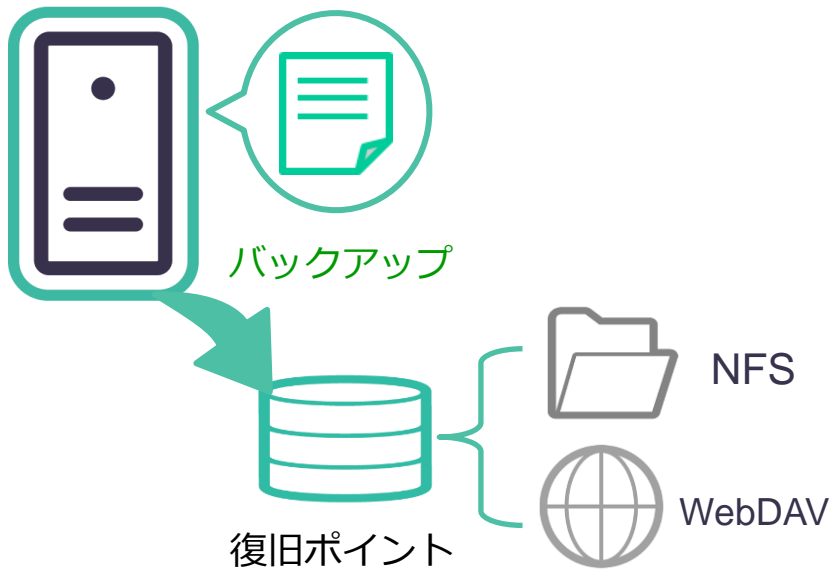
継続増分&重複排除で
バックアップを最小化

アクセス制御リスト
の復旧も可能

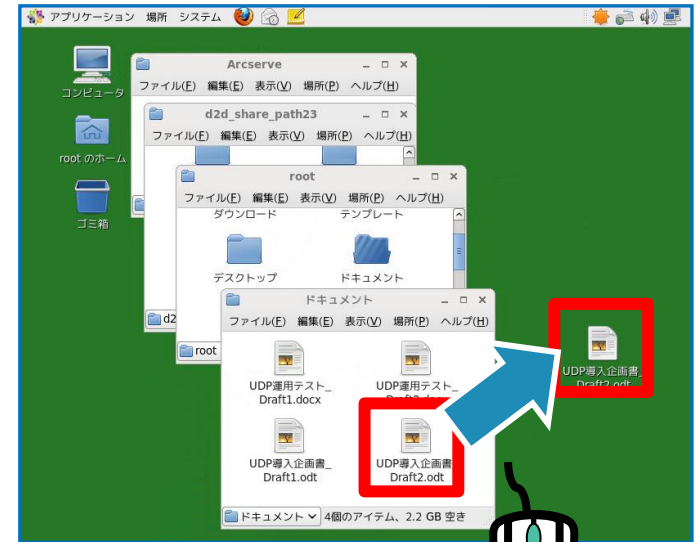
※ バックアップ先はRPSのみ利用可

> Linux 環境の簡単ファイル リストア

復旧ポイントをマウントして、ファイル単位でリストア



『NFS経由のリストア画面』

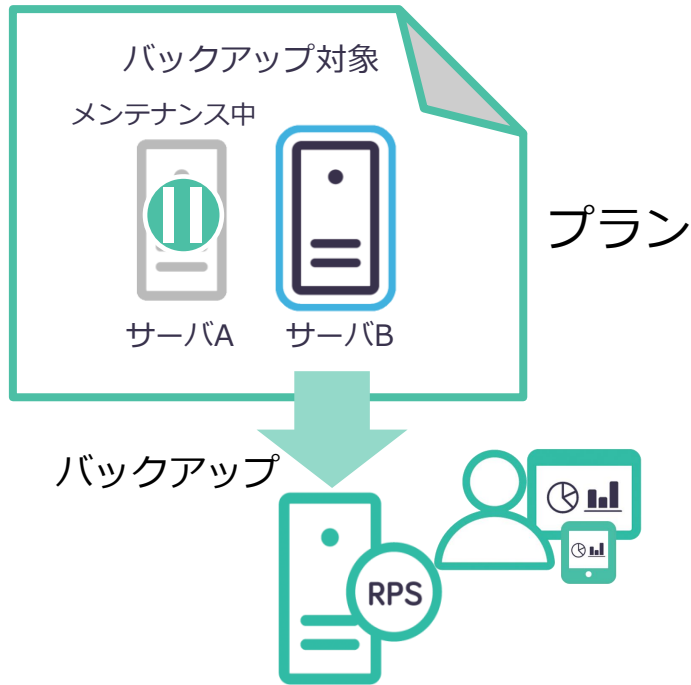


マウス操作だけ
(ドラッグ&ドロップ)
で簡単リストア

Linux も Windows も、
誰でも簡単なファイル リストアを実現

> バックアップの運用性および操作性の向上

任意サーバのバックアップを一時停止



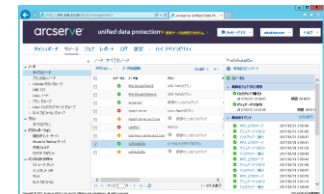
プランを変更しないでも、特定サーバのバックアップ実行をスキップ

UDP GUI へのシングル サインオン

① Windowsにログイン



② ログイン操作無しにGUIを起動



UDPコンソール

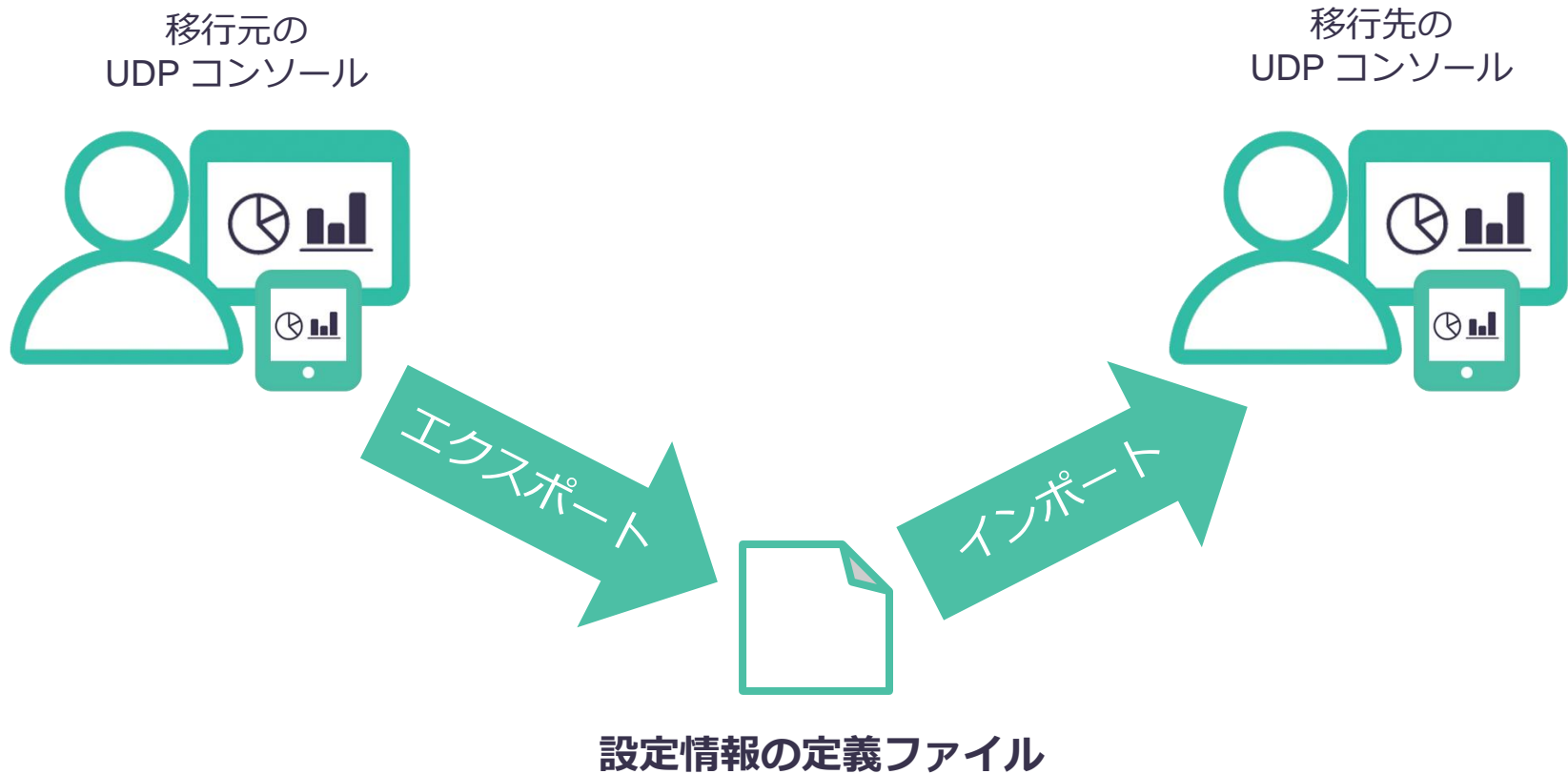


Windows エージェント

Windows 認証と統合し、UDP コンソールまたはエージェントにシングルサインオンを実現

> UDP コンソール情報の移行

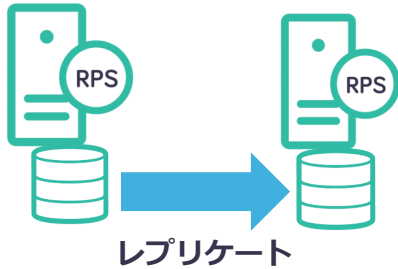
プランやノード、アクティビティログを別マシンのUDP コンソールに移行可能



> コストを抑えた復旧ポイントの2重化

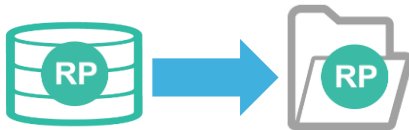
RPS 1台で復旧ポイントのレプリケートを実現

v6以前のレプリケート



- RPSが2台必要
- ✓サーバHW
- ✓OSライセンス x2

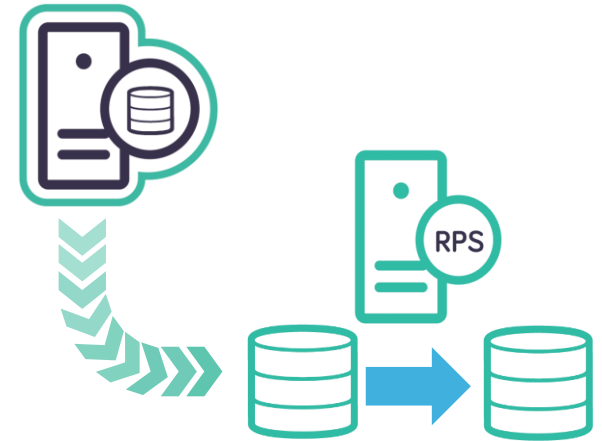
復旧ポイントのコピー



フルバックアップデータをコピー

- コピー先ディスクの容量に注意が必要
- コピーデータのカスケードやテープコピーが不可

ローカルレプリケート

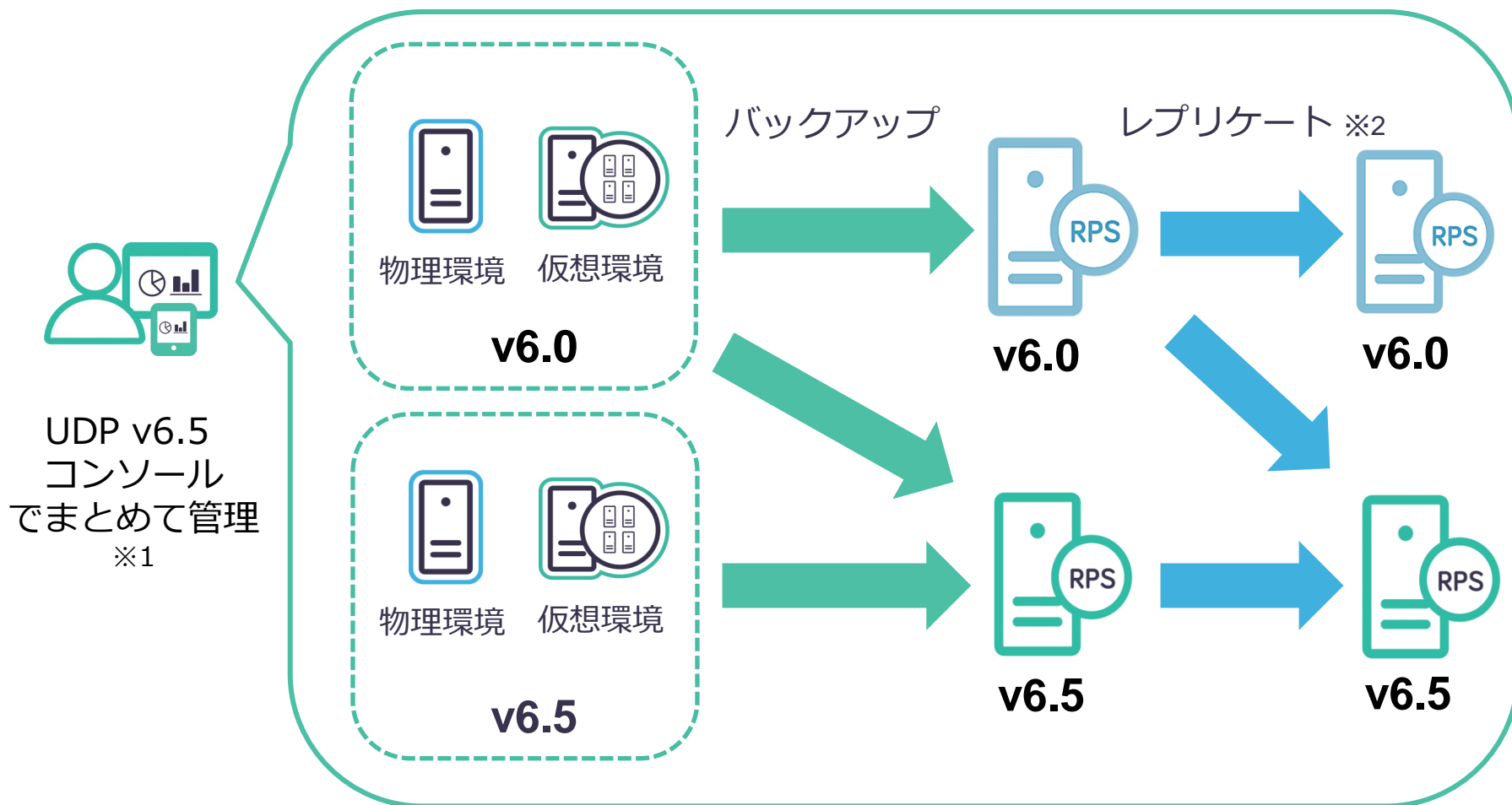


- 削減可能なもの
- ✓OSライセンス(1ライセンス)
- ✓サーバHW
- ✓ディスク(重複排除利用可)



> 前バージョンとの混在環境サポート

既存のバックアップを継続しつつアップグレードが可能



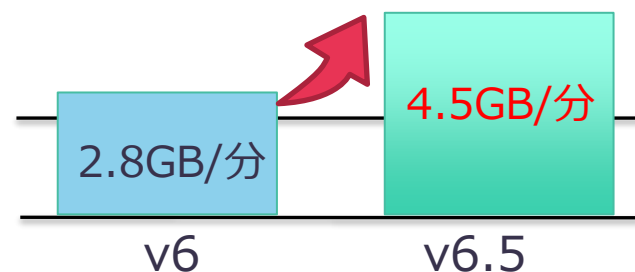
※1 v6.0とv6.5が混在する環境は、それぞれバージョンごとにプランを分けて運用してください。
※2 v6.0 Update3 から v6.0 Update2 および Update 1へのレプリケートをサポート

> リカバリ スピードの大幅高速化

※Arcserve 調査結果

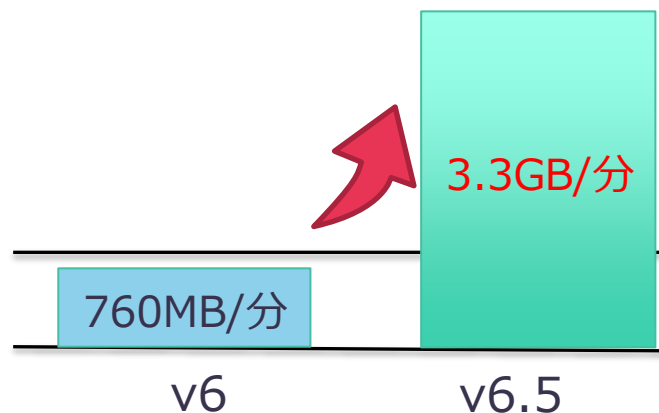
1. BMRによるサーバ復旧

スループット: **1.5 倍以上!!** (*1)



2. ファイル単位のリカバリ ※2

スループット: **4 倍以上!!** (*3)



*1 平均スループット GB/分 (復旧対象のデータ量: 197GB, 増分バックアップ:15回)

*2 カタログ作成無効 (デフォルト設定)

*3 平均スループット GB/分 (リストアデータ量: 107GB, 約6万5千ファイル)

> その他の拡張機能

レポートおよびイベントログ機能の追加および拡張

- 各ジョブの成功/失敗/キャンセルなどの状況を表示できるレポートを追加
状況レポートを定期的に自動作成し、電子メールで送付可能
- 復旧ポイントのデータ分布の拡張
データ分布レポートに重複排除無しの復旧ポイントの項目を追加
- イベントログやアクティビティログの警告およびエラーメッセージにID追加
ID番号のクリックでログ画面からトラブルシューティング情報へリンク

自動更新時の通信プロトコル選択機能の追加

更新ダウンロード時の通信プロトコルとして HTTP / HTTPS のいずれかを選択

UDP が利用するコンポーネントのアップグレード

- 製品同梱DBとして、SQL Server 2014 Express SP2 を採用

新規サポート対象の追加

- SQL Server 2017
- Debian
- Fujitsu Cloud K5 クラウドストレージ
- Data ONTAP 9.0
- Ubuntu

> その他の新機能/拡張機能

HPE 3PAR および Nimble のハードウェア スナップショットとの連携

- HPE 3PAR を新規サポート
- Nimble と VMware 環境との組み合わせをサポート

重複排除データ ストアの拡張

バックアップ時のエージェントとRPS 間、またはレプリケート時のRPS 間の通信で、チェックサム検証メカニズムを導入し、ネットワーク転送によるデータ破損を回避

Amazon EC2 / Azure 上の Linux 仮想マシンのサポート

EC2 および Azure 上の Linux 仮想マシンのバックアップ、ファイルレベル リストアおよび、BMRをサポート

SMB 3.0 (SOFS) のサポート

SMB 3.0 上の Hyper-V ゲストOS のエージェントレス & 継続増分バックアップをサポート

> その他の拡張機能

仮想スタンバイの機能拡張

- システム ボリュームだけからの仮想スタンバイ
システム起動に必要なディスク構成のスタンバイ用 VM 作成で、データ転送時間とストレージ容量を削減

インスタント VM の機能拡張

- 失敗したインスタント VM ジョブの再開
(ウィザード実行無しでインスタント VM を作成)
- ステータス表示の改善
(VMware Tools / Hyper-V 統合サービス導入状況、VMファイルパス容量など
カラムを追加)
- 作成ディスクのコントローラ (IDE / SCSI) 指定
- VMware 環境での速度向上
(仮想ディスクの更新をデータストアにリダイレクト)

> お問い合わせはこちらから



Arcserve ポータルサイト : [arcserve.com/jp](https://www.arcserve.com/jp)
カタログセンター (カタログ、技術資料)

<https://www.arcserve.com/jp/lpg/catalog-center.aspx>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)

例 : 「この構成に必要なライセンスを教えてください」、「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、「XXXはサポートされますか?」

フリーダイヤル : 0120-410-116

(平日 9 : 00~17 : 30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/japandirect>

